

2026 年度 液体クロマトグラフィー (LC) 分析士三段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

日時 2026 年 5 月 14 日 (木) 14 時～16 時

会場 北とびあ 601 会議室 (6 階) [東京都北区王子 1-11-1, 電話: 03-5390-1100, 交通: ① JR 京浜東北線「王子」駅下車北口より徒歩 2 分, ② 地下鉄南北線「王子」駅下車 5 番出口直結]

<https://www.hokutopia.jp/>

三段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「新しい分析法を開発し、その妥当性確認 (Method validation) を計画し、実施できるレベル。当該分析・測定技術に関連する学術的知識に詳しく、経験が深い。」と規程されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLC を用いた試験に関連する前処理に関する知識が十分である。与えられた公定法や論文を正確に読みこなし、自らその試験を行うか SOP を作成することができる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学ならびに分析化学一般に関する知識を問う内容が約 30% 含まれます。

受験料 8,800 円 (合格者は登録料 5,500 円を別途申し受けます)。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士二段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/pBfxZqMtrKRMMyCoY7>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 5 月 1 日 (金)

振込銀行口座 リそな銀行五反田支店普通預金 0802349 名義: 公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 [シヤ) ニホンブンセンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー]。一度お振込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次の受験料を免除します。

問合先 (公社) 日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証専門部会 (nakamura@jsac.or.jp)

2026 年度 液体クロマトグラフィー (LC) 分析士二段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。会場へのお問い合わせは、ご遠慮ください。

期日 2026 年 6 月 16 日 (火) 14 時～16 時

会場 (株) 島津製作所東京支社 [東京都千代田区神田錦町 1-3, 交通: 都営新宿線「小川町」駅、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線「淡路町」駅の B7 出口より徒歩 6 分、東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩 10 分、JR「神田」駅西口より徒歩 10 分。]

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行できるレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規程されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLC 装置とそれぞれのパーツ

の内容や原理の理解が十分にある。HPLC を用いた試験について、正確な操作を行うことができる。簡単な部品の交換が自分でできる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約 40% 含まれます。

受験料 7,700 円 (合格者は登録料 4,400 円を別途申し受けます)。請求書の発行はいたしません。入金確認後、10 日程度で受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士初段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/Dxzg61Hf9w3jbWjz8>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 6 月 3 日 (水) 15 時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 リそな銀行五反田支店普通預金 0802349, 口座名義: 公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 (シヤ) ニホンブンセンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次の受験料を免除します。

問合先 (公社) 日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証専門部会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

2026 年度 液体クロマトグラフィー (LC) 分析士初段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。会場へのお問い合わせは、ご遠慮ください。

期日 2026 年 7 月 17 日 (金) 14 時～16 時

会場 (株) 島津製作所東京支社 [東京都千代田区神田錦町 1-3, 交通: 都営新宿線「小川町」駅、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線「淡路町」駅の B7 出口より徒歩 6 分、東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩 10 分、JR「神田」駅西口より徒歩 10 分。]

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

初段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「指示をすれば一人で分析できるレベル。当該分析・測定技術に関する基礎的知識および関連する法令に関する知識を有する。」と規定されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「クロマトグラフィーや HPLC に関する基礎的知識と原理に対する理解が十分ある。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約 50% 含まれます。

受験料 6,600 円 (合格者は登録料 3,300 円を別途申し受けます)。請求書の発行はいたしません。入金確認後、10 日程度で受験番号をお知らせします。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/wcJzfJ5pACD2Sdb6>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 7 月 3 日 (金) 15 時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 リそな銀行五反田支店普通預金 0802349, 口座名義: 公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 (シヤ) ニホンブンセンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振込みいただいた受験料は返却しません。万一、当方の判断で試験が中止された場合には、次の受験料を免除します。

問合先 (公社)日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証
専門部会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

第 417 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究
懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日
本分析化学会, (公社)日本薬学会

高親水性、高極性化合物の分離には一般的に HILIC やイオ
ン交換等が多く利用されていますが、近年は逆相分配やミック
スモード充填剤を用いた分離例も多く報告されています。そこ
で、本例会では高親水性、高極性化合物の HPLC 分析につい
て、充填剤とアプリケーションの最新情報についてご講演いた
だきます。

期日 2026 年 3 月 16 日 (月) 13.00~16.55

会場 (株)島津製作所東京支社イベントホール [東京都千代田区
神田錦町 1-3, 交通: ①地下鉄: 都営新宿線「小川町」駅、
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線
「淡路町」駅の B7 出口より徒歩 6 分、東京メトロ銀座線「神
田駅」より徒歩 10 分、②JR「神田」駅西口より徒歩 10 分]
[https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.
html](https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html)

講演主題 高親水性・高極性化合物の HPLC 分析

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.05)

(LC シニアクラブ) 熊谷浩樹

(LC 分析士四段, LC/MS 分析士二段)

1. 逆相、ミックスモードを用いた高極性化合物の保持と分
離条件 (13.05~13.40)

(ジエールサイエンス(株)) 太田茂徳

(LC 分析士二段)

2. 逆相と HILIC のあいだ: 極性化合物分離のためのカラム
選択 (13.40~14.15)

(株)クロマニックテクノロジー 小山隆次

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段)

3. イオン交換クロマトグラフィーによるアミノ酸分析の基
礎 (14.15~14.50)

(株)日立ハイテクアナリシス 宮野桃子

(LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)

休憩 (14.50~15.10)

4. 食品分野における有機酸の HPLC 分析 (15.10~15.45)

((一財)日本食品分析センター) 横関俊昭

(LC 分析士初段)

5. LC-MS による親水性代謝物分析アプリケーションの紹介
(15.45~16.20)

(株)島津製作所 服部考成

(LC/MS 分析士初段)

6. 総括「高親水性・高極性化合物の HPLC 分析」(16.20~
16.55)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC マイスター, LC/MS マイスター)

参加費 ①学生: 1,000 円, ②LC 懇・個人会員: 2,000 円, ③
LC 懇・団体会員: 3,000 円, ④後援学会・個人会員: 4,000
円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500 円, ⑥その他: 5,000 円
(領収書の発行は、送金月日にかかわらず 2026 年 3 月 17 日
以降となります。請求書は発行しません)。

参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。
なお、日本薬学会会員として申込みされる方は、後援学会欄
に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込み
ください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお

待ちください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します
(会費 5,000 円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、
参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 2026 年 3 月 6 日 (金)
(入金締切時刻: 15 時まで)

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先
(電話番号)、LC 会員・協賛学会会員・その他の別およ
び情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みくださ
い。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込
書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に
「第 417 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受
付 (自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない
場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、
②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人ま
でお問い合わせください。
3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会
参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内
に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加
URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払
いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費
は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2026 年 3 月 9 日以降
に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じて
プリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発
行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会 (例会) 参加費送金時のご
注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止し
ておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
2. 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
3. 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/B6p8Wc4GHCQLoCn36>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店 (普通) 1754341, 口座名
義: シヤ) ニホンブンセキカガクカイ [公益社団法人日本分
析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究
懇談会 世話人 LC シニアクラブ 熊谷浩樹 [E-mail:
3031tvux@jcom.zaq.ne.jp]

——以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

日本分光学会近赤外分光部会第 19 回シンポジウム
健康と Well-being の促進における
近赤外分光の役割と期待

主催 日本分光学会近赤外分光部会
期日 2026 年 2 月 27 日 (金)
会場 東北大学片平さくらホール
ホームページ
<https://www.bunkou.or.jp/NIR/information/activity/3.html>
連絡先 〒980-8572 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1
東北大学大学院農学研究科 石川大太郎〔電話：022-757-4409, E-mail: daitaro.ishikawa.e3@tohoku.ac.jp〕

プラズマ分光分析研究会第 127 回講演会
プラズマ分光分析が支える基礎研究と
“ものづくり”における分析の重要性

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2026 年 3 月 5 日 (木)・6 日 (金)
会場 山形テルサ
ホームページ <https://yamagataterra.or.jp/>
連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 東京薬
科大学生命科学部 分子生命科学科生命分析化学研究室内
プラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子〔電話：042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

表面科学セミナー 2026

実践！インフォマティクスと自律計測の基礎と応用

主催 日本表面真空学会
期日 2026 年 3 月 23 日 (月)
会場 大田区産業プラザ PiO およびオンライン
ホームページ
<https://www.jvss.jp/ja/activities/06/detail/00024.html>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル
5 階 (公社)日本表面真空学会事務局
〔電話：03-3812-0266, E-mail: office@jvss.jp〕

日本顕微鏡学会第 82 回学術講演会

主催 (公社)日本顕微鏡学会
期日 2026 年 5 月 25 日 (月)～27 日 (水)
会場 仙台国際センター展示棟
ホームページ
<https://conference.wdc-jp.com/microscopy/conf2026/>
連絡先 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-21-13 廣池
ビルディング 402 (公社)日本顕微鏡学会事務局 崔 由美
〔電話：03-6457-5156, E-mail: jsm-post@microscopy.or.jp〕

第 1 回国際アミノ酸シンポジウム

主催 国際アミノ酸科学協会 (ICAAS)
期日 2026 年 9 月 3 日 (木)・4 日 (金)
会場 東京国際フォーラム D7 ホールおよびオンライン
ホームページ <https://icaas-npo.org/>
連絡先 朝倉陽子 (味の素㈱/国際アミノ酸科学協会) [E-mail: secretariat01@e-icaas.org]

「分析化学」 年間特集 “波” 論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では 2010 年より年間特集を企画し、2026 年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発。2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング。4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定。5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出。

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関わる論文は年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第 75 巻 (2026 年) 合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。
特集論文原稿締切：2026 年 4 月 17 日 (金) (第 3 期)

**「分析化学」特集
“未来を拓く熱分析”の論文募集**

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、“物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度 (または時間) の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスチック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026 年 2 月 20 日 (金)

特集論文原稿締切：2026 年 4 月 17 日 (金)

**初めて書く論文は母語の日本語で！
“第 25 回初執筆論文特集” 募集のお知らせ**

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026 年 (第 75 巻) に第 25 回

「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景を鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などに

より繰り返し紹介していただいても構いません。

4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。